

特別支援学校のシラバスの検討

ー教務課を担当する教員を対象としたアンケート調査の結果ー

[本研究の目的]

令和5年度に作成したアンケート用紙を用いて、大阪府立の支援学校が運用しているシラバスの学校現場への影響を検討する

[研究方法]

- 対 象 大阪府立支援学校（全47校）で教務の担当教員（教務主任が望ましい）
- 内 容 17項目のアンケート用紙を用いた調査
- 手続き ①アンケート用紙を郵送し、回答を依頼した ②回答を項目毎に集約し、内容を検討した

[結 果]

- 大阪府立の支援学校22校より返信があった（回収率47.8%）
- 学校の内訳としては、
知的障害支援学校：9校★
肢体不自由支援学校：5校★
聴覚障害支援学校：3校
視覚障害支援学校：1校
病弱支援学校：2校
高等支援学校(知的障害)：2校★
- 今回の調査で対象とするのは、上記の★印の学校である
- 回答は、
5件法5：そう思う
4：ややそう思う
3：どちらでもない
2：やや思わない
1：思わない
2件法（はい、いいえ）

シラバスの 作成 について	5	4	3	2	1
①ー1 児童生徒の実態に合わせてシラバスを作成している	5校	9校	2校	0校	0校
①ー2 学校の実態に合わせてシラバスを作成している	6校	9校	1校	0校	0校
③シラバスの内容はある程度固定されている	4校	9校	2校	1校	0校
④教科や学部間の系統性を整えている	1校	9校	2校	3校	1校
⑤指導要領の内容に当てはまらない授業内容がある	1校	0校	2校	7校	6校
⑥シラバス作成が難航する特性のある教科がある	4校	2校	3校	4校	3校
②授業実践の振り返りができる記録を残している	はい：11校 ^{1校未回答}			いいえ：4校	
シラバスの 運用 について	5	4	3	2	1
⑦教科会において検討、運用されている	5校	8校	1校	1校	1校
⑧シラバスの理解に教員間でばらつきがある	9校	4校	2校	0校	1校
⑩シラバスの意味や意義を深く理解していない状態で改訂されているケースがある	3校	5校	2校	4校	2校
⑨シラバスの内容が個別の指導計画やその評価とリンクしている	はい：9校			いいえ：7校	
⑪シラバスに明記されている三観点は成績や個別の指導計画に反映されている	はい：11校			いいえ：5校	
⑫毎年度、教育庁に提出するシラバスとは別に学校独自のシラバスが存在する	はい：1校			いいえ：15校	
シラバスの 効果 について	5	4	3	2	1
⑬授業の質を支えている	4校	6校	3校	3校	0校
⑭シラバスの検討を通じて、教員の学習指導要領への意識に変化が見られる	3校	7校	5校	1校	0校
⑮赴任してきた教員にとって授業内容を考える基となっている	7校	6校	2校	1校	0校
⑯シラバスの導入は、教科書採択に影響を与えている	4校	4校	5校	2校	1校

[考 察]

- 授業の質向上の一助となる可能性について ⇒ 授業の質は充実したシラバスが支えている可能性が高い
授業の質は一朝一夕に向上できるものではなく、先輩教員の存在や粘り強い取り組みなど、様々な要素が必要である（田村，2021）。また、門倉・有泉・大嶋（2024）は、良い授業計画は充実したシラバスに支えられていることを述べている。
- シラバス改訂と教員理解の関係について ⇒ シラバスに関する校内研修等の充実が、シラバスのより良い改訂につながる
シラバスに関係する教員同士で深く議論されることなく改訂されているケースがある可能性を示している。小倉・澤田・立田（2024）は、「校内組織や研修体制整備が、特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントを機能させる」としている。
- シラバス作成の際、考慮する必要がある事について ⇒ 児童生徒の実態と学校の実態の両方を参考にする必要がある
文部科学省のホームページやこれまでの先行研究においても、特別支援学校のシラバスに関する資料は見当たらない（松本他，2024）つまり、今回のアンケート調査の結果は、シラバス作成の際、考慮する必要がある事に関して1つの結論を出した内容であると言える。